

交差点改良一すぐに現地調査 “わしらの声を聞いてもろて 喜んでる”

ほんま



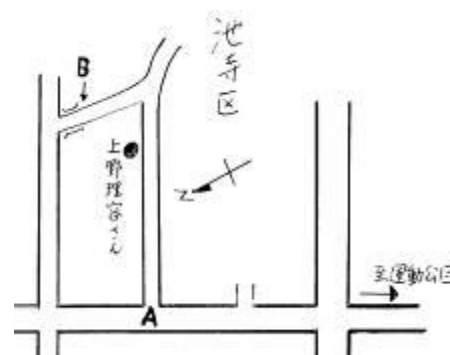
B：くずれた路肩が補強されました。要望では右側ガードレールの幅を広げてほしいことでしたが、費用もかかるということで先の検討課題となったもよう。



A：角がとれて曲がりやすくなった交差点

今年2月に要望事項を提出していた内、交差点改良が関係者の努力で、このほど実現しました。これは、町民から松元たけしさんに相談が寄せられ、池寺区の役員さん立会いの下で建設課長（当時）他職員が現地調査し、改良を約束していたもの。松元さん、西澤議員も立ち会いました。相談によれば、A地点は、近年この通りを利用する交通量が多くなり、直角に近い交差点ではトラックなど少し大きな車が曲がりにくくなって大きくはみ出して右・左折するので危険だというものでした。

西澤議員の話
現地調査で町民からの切実な声を直接伝えられたことが願い実現につながったと思います。B地点は水路をまたぐ拡幅が必要なたため、今後の実現を期待したいと思います。お気軽にご相談ください。当面10月25日に滋賀県への要望を行う予定です。



「しんぶん赤旗」9月26日号

甲良民報

2006年10月8日 337号
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在士 463
Tel.Fax38-4949
▼Eメール info@jcp-nobuaki.com
▼のぶあきホームページ
<http://www.jcp-nobuaki.com/>

潮流 野村総研によると、全世帯の2割にも満たない金持ち世帯が金融資産のシェアを18・4%と、この5年間に2割も増やしています。小泉政権下で格差社会は確実に広がっています▼小泉首相は発足当時いいました。「ある程度の痛みは耐えないと、明るい展望は開けない」。確かに国民には「すごい痛み」がきました。でも、「明るい展望」は見えてきません▼それどころか、押しつけられたのは、雇用の破壊であり、格差社会と貧困の広がりです。この5年間で正社員は二百七十万減り、非正社員は二百九十万増えています。働く人の三人に一人が非正規社員で、平均年収は百三十三万円といえます▼「ワーキングプア（働く貧困層）」「リストラ父さん」「フリーター息子」「悲惨世代」という言葉も生まれました。年金生活者にも大増税が降りかかりました。日本の貧困層比率はいまやOECD（経済協力開発機構）加盟三十カ国中二位になるほど悪化しています▼その一方、小泉改革を導んでいるのは、超低金利政策でほろもうけた大銀行、ハゲタカ外資、人材派遣業界、減税の恩恵を受け続けてきた大企業・大資産家です。一年前までは自民党の幹部だった政治家まで、小泉改革についてこういっています。「日本はひどい国になったなあ」▼さよう、新首相になる安倍晋三氏の著書『美しい国へ』の帯に「自信と誇りをもって日本へ」とあります。しかし、日本を自信と誇りをもってない国にしたのは、いったい誰なのか。